

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03918

研究課題名（和文）社会イノベーターの持続的輩出を可能にする社会関係資本ベースの教育手法開発

研究課題名（英文）Development of Social Capital Oriented Education Methods to Enable Sustainable Development of Social Innovators

研究代表者

西出 優子（Nishide, Yuko）

東北大学・経済学研究科・教授

研究者番号：60451506

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、社会の課題解決や変革を目指すNPOや社会的企業等を率いる社会イノベーターを持続的に輩出するにはどうすればよいか、という問いに対して、社会関係資本ベースの教育手法の開発と実践を行なった。その結果、社会人基礎力をもとに、信頼とつながり、共感、多様性と包摂、当事者意識、地域や他者への貢献意欲、主体性、ミッション、相互学習と強靱な回復力を引き出す機会や場を持続的に創出することの重要性が明らかになった。また、サービスラーニングやPBL等を中心に、多様なリーダーシップとフォロワーシップ、学習する組織・実践コミュニティ、メンターと仲間の複層的な存在と行動が求められることも示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、社会イノベーターの育成輩出に関し、これまでの先行研究ではあまり注目されてこなかった社会関係資本の視点をふまえた教育手法およびその評価手法を開発したことで、社会イノベーター、リーダーシップやフォロワーシップ、NPO教育、サービスラーニングやPBLの理論と実証研究の発展の一助となったことにある。実践的意義は、大学や研修の場で、共感や多様性、強靱な回復力を引き出す機会の創出やメンターと仲間の存在など、持続的に社会で活躍する人材育成輩出に向けた中核的能力や態度、実践コミュニティの醸成を組み入れる可能性を示唆したことである。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed and practiced educational methods based on social capital to answer the research question, "How can we sustainably produce social innovators who lead NPOs and social enterprises that aim to solve social problems and make changes? The result of the study shows that it is important to continuously create opportunities and places to draw out trust and connection, empathy, diversity and inclusion, a sense of ownership, willingness to contribute to the community and others, autonomy, mission, mutual learning, and resilience based on basic social skills. It was also suggested that diverse leadership and followership, learning organizations and communities of practice, and the multi-layered presence and actions of mentors and peers are pivotal, especially in the practice of service learning and PBL.

研究分野：非営利組織論

キーワード：社会イノベーター ソーシャルキャピタル 信頼 共感 多様性 当事者意識 ミッション レジリエンス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

現代は様々な問題や事件、災害等が世界各地で発生している。そのため新たな社会的ニーズに対応し、新たな社会価値を創出する団体や人材が必要である。研究代表者は、NPOの役員を務めながら、長年のボランティア経験もふまえ、社会関係資本や非営利組織の人材育成、サービス・ラーニングに関する研究教育を行ない、高い志を持った多様なNPOリーダー・社会イノベーターに触れてきた。このような中、多様な分野における多様な世代のNPOや社会的企業において、次世代リーダーの育成、後継者・承継問題が顕在化してきた。では、社会的課題を解決し、新たな社会価値を創出する社会イノベーターを、今後も持続的に育成輩出するにはどうすればよいか、そのためにはどのように教育を行えばよいか、というのが研究開始当初の問題意識で合った。

2. 研究の目的

本研究では、多様な社会的課題を解決し、新たな社会価値を創出することを目指して社会の多分野で活動している社会イノベーターを持続的に輩出する教育手法およびその評価手法を開発することを目的とした。中でも、特に国内外での研究蓄積が少ない社会関係資本(信頼や規範、ネットワーク)に着目し、新たな理論的・実践的な枠組みを提示する。これにより、社会イノベーター・リーダーの育成・NPO教育に関する理論的貢献および、各団体の社会的活動の質の向上と、社会への継続的な支援が期待できる。そのため、本研究においては、社会の課題解決や変革を目指すNPOや社会的企業等を率いる社会イノベーターを持続的に輩出するにはどうすればよいか、という問いに対して、社会関係資本ベースの教育手法および評価手法の開発と実践を行なうこととした。

3. 研究の方法

本研究の方法としては、文献レビュー、国内外でのインタビュー調査、ライフ・ヒストリー調査、アクションリサーチ・参与観察、社会起業家教育・科目を提供している全国の大学におけるシラバス調査を組み合わせて行った。

社会イノベーター・リーダー育成・人的資源管理、リーダーシップ、社会関係資本の理論的政策的動向や評価理論について文献調査を行うとともに、インタビュー調査やシラバス調査を実施した。国内調査は主に東北地方において、海外調査は主に米国およびアジア太平洋地域において実施し、次世代社会イノベーターの育成およびリーダーシップ開発の現状と課題社会関係資本の視点からその形成・阻害要因を中心に分析した。

なお、申請当時は研究代表者個人で研究を遂行する予定であったが、随時有望な若手研究者を分担者として追加し合計7名の研究体制に強化した。これにより、各専門領域・役割分担分においてより多様な教育手法・評価手法を実践し開発改善しながら調査研究を進展させた。具体的には、NPO論、ソーシャル・ビジネス論、社会イノベーター教育、ボランティア活動の担い手育成、震災復興の担い手育成、PBL(課題解決型)教育等で教育手法および評価手法を実施し、その有効性を検証・改善した。

(1)文献調査:ソーシャルイノベーターの育成・リーダーシップおよび社会関係資本の最新の理論的動向をレビューした。また、これらの促進に積極的に取り組んでいる国内外の政策的取り組みについても比較検討した。さらに、評価手法の開発に向け、関連文献をレビューした。

(2)国内外でのインタビュー調査・全国シラバス調査:

インタビュー調査は、社会関係資本の視点から人材育成の促進・阻害要因やコンピテンシー、その波及効果および適用可能性について、インタビューや参与観察を行なった。海外では、米国、タイ、香港、ニュージーランド等における社会イノベーター教育・育成手法やNPO教育の実践を調査し、これらの分析考察を行なった。国内では、東北地方を中心に、東北の地域性および全国の非営利組織代表者や研究者とのネットワークを生かして、各地域における非営利組織や大学を実地訪問した。実践的学びを通じた次世代社会イノベーターの育成およびリーダーシップ開発の実態について、実践型学びのプログラムを提供している非営利組織や大学、社会的企業の代表・人事担当者を中心にインタビューを実施した。また、社会イノベーターのライフ・ヒストリーを調査分析した。海外では、大学・学生が地域貢献に取り組んでいる団体、実践的学びを通じたプログラムを展開している団体などを訪問し、インタビュー調査を実施した。さらに、社会起業家教育を実施している全国大学のシラバス調査も実施した。

(3)教育・評価手法の開発と実施・改善・検証:実際に大学の授業の一環として、NPOやボランティア、震災復興、サービス・ラーニング、PBLに従事している研究代表者・研究分担者によるアクションリサーチを実施した。例えば、初年度にNPOと自治体と連携して開発した、地域課題解決に向けたアイディア創出に関する実践型演習を実施した。また、社会イノベーターの育成・リーダーシップ開発に向けた自己評価指標(セルフチェックシート)

を教育実践において活用・分析した。その結果をふまえて、自己評価指標や相互評価等の手法の改善を図った。

(4)公開セミナーの開催：震災復興、教育、まちづくり等に携わる社会イノベーター・NPOリーダーによるセミナーを毎年継続して開催した。特に、多様性の資質を備えたリーダー育成の手法開発に向けて、SOGI(多様性)や震災復興におけるマイノリティの取り組み等にも焦点をあてた。彼らのライフヒストリーや成長のプロセス、ミッション、事業・活動内容と戦略、経営・人生哲学等について示唆を得た。

(5)研究成果の発信：本課題研究に関する成果を国内外における学会報告・論文図書・研究会を通して積極的に発信した。

4. 研究成果

本研究では、社会イノベーターを持続的に輩出する教育手法およびその評価手法を開発した。特に社会関係資本をふまえた新たな理論的・実践的な枠組みを提示した。主な知見としては、社会人基礎力をふまえたうえで、社会関係資本(信頼とつながり)、共感、多様性と包摂の規範、当事者意識、地域や他者への貢献意欲、主体性、ミッション・志、相互学習、内省、レジリエンス等の人間力・市民性を引き出す機会や場を持続的に創出することの重要性が明らかになった。そのためには、サービス・ラーニングやPBL等を中心に、理論と実践をつなげ、状況に応じて多様な価値観を創発するリーダーシップとフォロワーシップ、メンターと仲間を循環させる自律的な学習する組織・実践コミュニティのプラットフォームと共感するメンターと仲間の複層的な存在と行動が求められることも示唆された。

本研究成果の学術的意義は、社会イノベーターの育成輩出に関し、これまでの先行研究ではあまり注目されてこなかった社会関係資本の視点をふまえた教育手法およびその評価手法を開発したことで、社会イノベーター、リーダーシップやフォロワーシップ、NPO教育、サービスラーニングやPBLの理論と実証研究の発展の一助となったことにある。

実践的意義は、大学や研修の場で、共感や多様性、強靱な回復力を引き出す機会の創出やメンターと仲間の存在など、持続的に社会で活躍する人材育成輩出に向けた中核的能力や態度、実践コミュニティの醸成を組み入れる可能性を示唆したことである。

これらの研究成果は、ARNOVA(米国NPO・ボランティア学会)、ARNOVA-Asia、ISTR(国際NPO学会)-Asia、ICSEA(国際社会的企業学会)-Asia、RAMICS(地域通貨国際学会)、日本NPO学会、日本ソーシャル・イノベーション学会、日本社会関係学会、人材育成学会、地域活性学会、日本マーケティング学会など、内外の関連学会で発表し、改善に向けたフィードバックを得た。その結果得られた改善点を踏まえて研究の成果を取りまとめ、学術誌にて論文を投稿・発表した。また、公開の研究会やセミナー、学会報告、論文投稿、シンポジウム等を開催し、成果を幅広く国内外に発信した。

論文・図書・分担執筆の主な研究成果は以下の通りである。

"The development of social entrepreneurship education in Japan," 「ソーシャルビジネス：アスヘノキボウの協働まちづくり」, 「日本の観光NPOの活動と収益獲得能力：全国データ分析からの示唆」, 「コミュニティの協働から学ぶサービス・ラーニング」, 「社会的マイノリティとの「対話」に向けたボランティア学習」, 『「東日本大震災と現代日本社会」報告書』。

また、国内外の関連学会での主な研究報告題目は以下の通りである。

国際学会報告題目例：“Role of Educational NPOs in Empowering Youth and Community after Disaster,” “How to Foster Social Innovators through Collaborative Classes and Projects? Case Study of Cross-sector Collaboration,” “What Can Nonprofit Education Provide to Develop Competencies for Collaborative Leadership?” “The Development of the Social Entrepreneurship Education in Japan,” “How have sexual minority organizations impacted on the attitudes and actions of citizens for inclusive society in Japan?” “What is the motivation for members of international-NGOs to become a member and continue? : From a marketing perspective,” “How Did Nonprofit Organizations Respond to the Covid-19 Crisis? The Case of Japan,” “Cross-sector partnership for community development after disaster: from social entrepreneur and social capital perspectives,” “Sustaining Impact: An Investigation into the Practices of Long-Lived Japanese Community Currencies,”

国内学会報告題目例：「日本における社会企業家教育の開発」、「社会課題解決型学習におけるファシリテーションのあり方—地域課題をテーマとしたアクティブ・ラーニングの事例から—」、「公共・非営利領域の対境担当者-震災復興過程の文脈での検討-」、「コミュニティ形成における住民の主体性発揮プロセス-震災復興の文脈を中心とした検討-」、「豪雨災害に際する東北大学から広島大学への伴走型支援」、「アントレプレナーシップ醸成に対するオンラインコミュニティでの情報共有の機能」、「ICT・IoTを活用した健康管理サービスにおける情報リテラシー戦略の動向」、「従業員の健康知識向上と健康行動を支援する協働システムに関する一考察」、「多様な性の受容と啓発における教育とNPOの役割」。

さらに、社会イノベーター育成の中核となる多様性や社会関係資本の視点から、公益財団法人と連携した信頼ギャザリング、SOGIセミナー、グローバルリーダー・キャリアセミナー等、社会イノベーターの研究者・実践者によるセミナーを幅広く開催し、講師や参加者との意見交換を行なった。特に、学生主体で他大学とも連携し、ジェンダー・セクシュアリティ

イを大学と学生の双方の視点から考えるセミナーを毎年開催し、のべ500名が参加し、多様性を理解し受容することや当事者意識等、参加者同士の意見交換をふまえて考察を深めた。

また、グローバル社会イノベーター・セミナー【教育編】【キャリア編】【国際機関編】やNPOセミナー「性の多様性ー当事者とアライの視点ー」など、複眼的視点から公開セミナーを実施し、研究者とともに社会変革や社会起業に関心のある学生や実務家が共に参加して課題や解決策を考え議論する教育実践を継続して行ない、複眼的視点から調査研究を進めることができた。特に最終年度は、Global Social Innovation Seminar Seriesとして、国内外で活躍している若手研究者を中心とした講師陣で、「地域通貨組織の持続可能性」、「紛争地域における人道支援NGOの意思決定のジレンマ」、「地域・地方のNPO」、「多様な性の市民力」をテーマに、のセミナーを英語で開催し、国内外からの参加者と活発な議論を交わした。

なお、国内の学会報告では、社会イノベーターの教育・人材育成のアクションリサーチの一環として、学生主体で共同執筆・共同報告を行ない、モデレーターや討論者から有益なフィードバックを得た。特に最終年度においては、コロナ禍におけるNPOリーダーのレジリエンス（強靱な回復力）にも着目し、子ども支援、まちづくり、文化芸術に関するNPOや「外部人材定着のためにNPOができること」のケーススタディをとりまとめた。その一部はディスカッションペーパーにとりまとめ、その他についても論文投稿の準備を進めている。

さらに、3年目および最終年度の最後に、社会イノベーションシンポジウムを開催し、研究成果を発信した。3年目のシンポジウムでは、「社会イノベーターを持続的に育成・輩出するには？ーソーシャル・キャピタルとウェルビーイングの視点ー」を開催し、本研究課題に関して、「社会イノベーターの人材育成」、「東北大学におけるボランティア活動からサービス・ラーニング授業への展開」、「大学の社会起業教育」、「社会課題解決に資する人材の育成システム」、「アントレプレナーシップ醸成に対するオンラインコミュニティ」等、6本の研究成果報告を行ない、参加した研究者・実務家らと意見交換し、今後の展望について示唆を得た。また、最終年度のシンポジウムでは、「社会イノベーターの学び・教育・働き方」と題して、「コロナ禍の社会イノベーター教育」、「留学生との協働学習」、「社会的マイノリティとの対話に向けたボランティア学習」、「被災地・被災者の自立に向けた学生ボランティアの葛藤と模索」、「新しい働き方と従業員の健康づくり」等、5本の研究成果報告を実施した。

これらの研究活動や研究成果の発信を通して、社会関係資本および多様性と包摂の視点等から、社会イノベーターの持続的な排出・育成に関する新たな知見および学術的・実践的示唆を得ることができた。

以上のように、本研究の実施および成果の発信を通して、国内外における社会イノベーター・教育機関・NPO・研究者との新たなつながりもできたので、今後も本研究を継続発展させ、学術的にも実務的にもさらに貢献できるように努めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Nakao Koichi、Nishide Yuko	4. 巻 3
2. 論文標題 The development of social entrepreneurship education in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Entrepreneurship Education	6. 最初と最後の頁 95～117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s41959-019-00020-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中尾 公一、西出 優子	4. 巻 31
2. 論文標題 日本の観光NPOの活動と収益獲得能力 全国データ分析からの示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 67～74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18979/jitr.31.1_67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 江口 怜	4. 巻 なし
2. 論文標題 「正課・課外リンク」の構築可能性 学生ボランティアの事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2017年度課外・ボランティア活動支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中尾公一・西出 優子	4. 巻 33
2. 論文標題 日本の観光NPOの全国データ分析からの一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 261-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西出優子	4. 巻 1227
2. 論文標題 NPOの人材育成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上西智子・西出優子	4. 巻 なし
2. 論文標題 社会課題解決型学習におけるファシリテーションのあり方 地域課題をテーマとしたアクティブ・ラーニングの事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人材育成学会 第16回年次大会論文集	6. 最初と最後の頁 227-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾 公一	4. 巻 6
2. 論文標題 公共・非営利領域の対境担当者 - 震災復興過程の文脈での検討 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 組織学会大会論文集	6. 最初と最後の頁 100 ~ 107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11207/taaos.6.1_100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李浩東	4. 巻 45(4)
2. 論文標題 従社会資本的観点看養老機構入住老人的生活満足度	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 遼寧大学学报 (哲学社会科学版)	6. 最初と最後の頁 56-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16197/j.cnki.lnupse.2017.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上西智子	4. 巻 秋号
2. 論文標題 地域医療ネットワークにおけるサービス・エコシステム	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『情報経営』 第75回全国大会予稿集	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上西智子	4. 巻 秋号
2. 論文標題 ICT・IoTを活用した健康管理サービスにおける情報リテラシー戦略の動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『情報経営』 第75回全国大会予稿集	6. 最初と最後の頁 165-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Yuko Nishide, Junro Nishide
2. 発表標題 Cross-sector partnership for community development after disaster: from social entrepreneur and social capital perspectives
3. 学会等名 Asia-Pacific Regional Conference, International Society for the Third Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jeremy September, Yuko Nishide
2. 発表標題 Sustaining Impact: An Investigation into the Practices of Long-Lived Japanese Community Currencie
3. 学会等名 Research Association on Monetary Innovation and Community and Complementary Currency Systems (RAMICS) International Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上西智子、西出優子
2. 発表標題 従業員の健康知識向上と健康行動を支援する協働システムに関する一考察
3. 学会等名 人材育成学会第17回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中陽平
2. 発表標題 アントレプレナーシップ醸成に対するオンラインコミュニティでの情報共有の機能
3. 学会等名 人材育成学会第17回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊池遼
2. 発表標題 平成30年7月豪雨災害に際する東北大学から広島大学への伴走型支援
3. 学会等名 日本NPO学会第21回年次報告大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishide, Yuko and Nishide, Junro
2. 発表標題 Role of Educational NPOs in Empowering Youth and Community after Disaster
3. 学会等名 Association for Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action (ARNOVA) 47th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishide, Yuko
2. 発表標題 How have sexual minority organizations impacted on the attitudes and actions of citizens for inclusive society in Japan?
3. 学会等名 International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA) 5th Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakao, Koichi and Nishide, Yuko
2. 発表標題 The Development of the Social Entrepreneurship Education in Japan
3. 学会等名 International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA) 5th Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shimizu, Chie and Nishide, Yuko
2. 発表標題 What is the motivation for members of international-NGOs to become a member and continue? : From a marketing perspective
3. 学会等名 International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA) 5th Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishide, Yuko
2. 発表標題 How to Foster Social Innovators through Collaborative Classes and Projects? Case Study of Cross-sector Collaboration
3. 学会等名 ARNOVA-Asia Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishide, Yuko
2. 発表標題 What Can Nonprofit Education Provide to Develop Competencies for Collaborative Leadership?
3. 学会等名 ARNOVA-Asia Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上西智子・西出優子
2. 発表標題 社会課題解決型学習におけるファシリテーションのあり方 地域課題をテーマとしたアクティブ・ラーニングの事例から
3. 学会等名 人材育成学会 第16回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾公一・西出優子
2. 発表標題 日本の観光NPOの全国データ分析からの一考察
3. 学会等名 日本観光研究学会第33回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾公一・西出優子
2. 発表標題 日本における社会企業家教育の開発、
3. 学会等名 現代経営研究学会 AEIP 2018年度研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木秀之・坂上英和・中尾 公一・高橋結・西出優子
2. 発表標題 「東日本大震災の復興過程にみる災害時の合意形成の困難性と平時の合意形成づくりの可能性」(パネル参加)
3. 学会等名 日本NPO学会第19回年次大会, 東京学芸大学, 東京都小金井市
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Haodong Li and Yuko Nishide
2. 発表標題 How Do Private Nonprofit Nursing Care Facilities Get Resources within the System? The Effects of Social Capital in Different Patterns of Partnerships with Government
3. 学会等名 ARNOVA-Asia Conference, Renmin University of China, Beijing, China. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中尾 公一
2. 発表標題 「公共・非営利領域の対境担当者 - 震災復興過程の文脈での検討 - 」
3. 学会等名 組織学会2017年度研究発表大会, 滋賀大学, 滋賀県彦根市
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中尾 公一
2. 発表標題 「コミュニティ形成における住民の主体性発揮プロセス - 震災復興の文脈を中心とした検討 - 」
3. 学会等名 地域活性学会第8回研究大会, 島根県立大学, 島根県浜田市
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中尾 公一
2. 発表標題 「支援団体は震災後のコミュニティ形成過程にどのように貢献したか ~宮城県のケース・スタディ~」
3. 学会等名 8th East Asia Civil Society Volunteer Forum 2017, Disaster & Community Rebuilding, Daejeon, South Korea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上西智子
2. 発表標題 地域医療ネットワークにおけるサービス・エコシステム
3. 学会等名 日本情報経営学会 第74回全国大会、龍谷大学・深草キャンパス、京都府京都市
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上西智子
2. 発表標題 ICT・IoTを活用した健康管理サービスにおける情報リテラシー戦略の動向
3. 学会等名 日本情報経営学会 第75回全国大会、龍谷大学・深草キャンパス、京都府京都市
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上西智子
2. 発表標題 健康管理サービスにおける情報リテラシー・マネジメント
3. 学会等名 日本マーケティング学会 第6回マーケティングカンファレンス2017、早稲田大学・早稲田キャンパス、東京都新宿区
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 東北大学経営学グループ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 398
3. 書名 ケースに学ぶ経営学〔第3版〕	

1. 著者名 佐藤 智子、高橋 美能	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 多様性が拓く学びのデザイン	

1. 著者名 西出優子・江口怜・菊池遼・下境佳典編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東北大学高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター	5. 総ページ数 194
3. 書名 「東日本大震災と現代日本社会」報告書	

1. 著者名 西出優子・蓮見健太編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール	5. 総ページ数 183
3. 書名 NPOの理論と実践	

1. 著者名 西出優子・蓮見健太・成瀬圭吾編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール	5. 総ページ数 44
3. 書名 非営利組織の持続可能性 - 宮城県内NPOのインタビュー調査より	

1. 著者名 西出優子監修・非営利組織論ゼミナール編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール	5. 総ページ数 7
3. 書名 コロナ禍における宮城県NPO法人の実態調査報告書	

1. 著者名 西出優子監修・峯村遥香編・非営利組織論ゼミナール	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール	5. 総ページ数 23
3. 書名 All Colars Lives Matter 日本は人種差別とは関係ない？	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>社会イノベーション・シンポジウム「社会イノベーターを持続的に育成・輩出するには？」 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2019/12/event20191212-02.html NPOセミナー：性の多様性（SOGI） 当事者とアライの思い 「LGBTQ+って何？」 http://tumug.tohoku.ac.jp/blog/2019/07/24/15050/ International workshop on social capital https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2019/07/event20190726-01.html グローバル社会イノベーター・セミナー【キャリア編】「国際社会におけるキャリア構築」 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2019/05/event20190523-03.html 信頼ギャザリング@仙台 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2019/05/event20190516-00.html NPOセミナー・プライド月間企画「多様な性・LGBTとNPO：俺、彼氏いるんだ」 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2018/05/event20180518-01.html 非営利組織としての学校法人経営 - 尚学学園が取り組むグローバル教養人の育成 - http://www.okisho.ed.jp/wp/wp-content/uploads/2018/09/leaflet_seminar_inTohokuUniv180702.pdf NPOと行政の協働 - 仙台市の地域課題解決アイデア報告会 http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2018/05/event20180517-03.html 国際NPOリーダーシップ講演会「非政府組織の政治活動 中立性、独立性と民主主義の矛盾」 http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2018/05/npo-73.html 災害時のLGBT対応議論 東北大ゼミでカナダの研究者講義、避難所での課題など指摘 https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201812/20181217_13026.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中尾 公一 (Nakao Koichi) (60807098)	兵庫県立大学・国際商経学部・准教授 (24506)	
研究分担者	上西 智子 (Kaminishi Tomoko) (70420023)	東北大学・経済学研究科・博士研究員 (11301)	
研究分担者	菊池 遼 (Kikuchi Ryo) (40823167)	日本福祉大学・社会福祉学部・助教 (33918)	
研究分担者	江口 怜 (Eguchi Satoshi) (60784064)	和歌山信愛大学・教育学部・助教 (34702)	
研究分担者	田中 陽平 (Tanaka Yohei) (30827895)	東北大学・工学研究科・特任助教 (11301)	
研究分担者	李 浩東 (Li HaoDong) (10803059)	東北大学・経済学研究科・博士研究員 (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 International Workshop on Social Capital, Resilience and Disaster Recovery	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Global Social Innovation Seminar Series	開催年 2020年～2021年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------